

英語科授業案

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-08-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小池, 智美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026751

英語科授業案

授業者 小池 智美
Matthew Coughlin

- 1 日時 平成30年10月12日(金) 第1時 10:15~11:05
- 2 学級 1年A組 (1年A組教室)
- 3 題材名 “Look! This Is My Own Original Product!”
—オリジナル商品の魅力を伝えよう—

4 題材の目標

日本文化のよさを英語で伝えることにもどかしさを感じる子どもたちが、創作したオリジナル商品の魅力を伝える活動を通して、その魅力が相手に伝わるような英語表現を意識しながらやり取りを楽しみ、伝わった達成感を味わうことができる。

5 題材観

(1) 伝え合う楽しさ

「これいいな!」と思ったものを見つけたとき、多くの人に伝えたい、よさを理解してもらいたいという気持ちは誰もがもっているものでしょう。私たちは気に入って買ったものや自分の思いが詰まったオリジナル商品(マイ湯飲み、扇子、自分でデザインした服など)に囲まれて生活しています。友人から自分の持ちものに対して「それ、いいね」と言われると、「このデザインが気に入っていて、この部分が特に好き」というようにさらに伝えたくなっていく。

私たちは自分の思いや考えを伝えるとき、聞き手からの反応があることで、伝えることに対してさらに楽しさを感じます。聞き手が感想を伝えることで、話し手は自分の思ったことや伝えなかったことが理解されたと感じますし、自分の伝えきれなかったことまで聞き手が引き出してくれると感じることも多くあります。このような経験を積み重ねていくことで、「もっと伝えたい」「もっと知りたい」という思いが強くなり、自分の考えや思いをより多くの人と伝え合うことは楽しいことだと実感していくのです。

現在では、世界中の人々に自分の思いや考えを発信することができます。共通の話題で思いや考えを共有することは、相手の意図や心情、人となりを推し測ることにつながります。このことは情報の授受に留まることなく、人とのつながりへと発展していくでしょう。

(2) 日本文化を伝えること

日本で生活している私たちが異言語・異文化を

もつ人々に日本文化を伝えるとき、そのよさを理解してもらうために、場面や状況などをわかりやすく説明したり、日本や日本文化について捉え直そうとしたりしている自分に気づきます。日本文化のよさをわかりやすく伝えようと言葉やジェスチャーなどを総動員して必死に伝えようとするでしょう。だからこそ、伝える喜びと共に私たちは日本のよさをわかってもらえたという達成感や日本により興味をもってくれるかもしれないという期待感をもったりすることでしょう。このように異言語・異文化をもつ人々に伝えることで日本文化の本質やそのよさを再発見しようとしたり、日本人としての自分をふりかえったりしていくのです。日本文化を伝えることは文化の説明という単なる表面的な言葉のやり取りではなく、どのような言葉を選べば伝わるのだろうかという異言語・異文化をもつ人の立場を考えたり、日本や日本人としての自分をもう一度見つめ直したりするきっかけとなるでしょう。

(3) Japan Expo とは

世界各地で日本文化を紹介するイベントが開催されています。毎年世界各地で行われている Japan Expo は、日本文化に出会うための窓口として、日本のあらゆるエンターテインメントを網羅し、その懸け橋となることを目的として作られました。また、2000年から毎年行われており、現在はヨーロッパだけでなく、アメリカや東南アジアでも開催されています。

Japan Expo には日本文化をよく知っている人や日本のことを知りたいと思う人も来場します。

そこでは、来場者たちが日本文化をもっと理解し、楽しめるように工夫がなされています。例えば、着物を紹介するブースでは、着付けやヘアメイク体験を通して、来場者が着物の魅力を実際に感じられるように工夫されています。書道を紹介するブースでは来場者の名前を漢字で当てはめ、その場で漢字を扇子に書いて渡すということも行われています。来場者が喜んでくれるような漢字の名前をワクワクしながら考える日本人と、どのような漢字を書いてくれるのかをドキドキしながら待つ来場者のように、文化や言葉を越えたほほえましいやり取りが会場中にあふれています。このように、日本文化に精通している人たちにとっても新しい日本文化の一面を体験できる機会がたくさんあり、新しい発見によって生まれる感動や笑顔が絶えない空間となっています。

(4) 本題材で味わう英語科ならではの文化

本題材では、子どもたちは日本文化にユニークさと自分の思いを加えた商品の魅力を伝え合います。「聞き手の感想や反応からよさを伝えることが

できたという達成感を話し手が味わうこと」や、「よさが伝わっていないと感じたときには、ジェスチャーなどを用いてあきらめずに積極的にコミュニケーションを図ろうとすること」が本題材で味わう英語科ならではの文化と捉えます。

(5) 題材と子どもたち

子どもたちは日常生活において、お気に入りのものや、お気に入りの音楽などの魅力を伝えたい、わかってもらいたいと思っていることでしょう。また、異言語・異文化をもつ人々に日本や日本文化について伝えていく機会にもこれから多く恵まれるでしょう。そういったコミュニケーションの場を通して、聞き手としても異言語・異文化をもつ人々のことを理解しようと感想を伝えたり、質問をしたりすることも楽しんでいく姿に期待しています。子どもたちが英語で伝えたくても適切な英語表現が見つからないもどかしさを感じながらも、世界の人々とのコミュニケーションを楽しむ人になっていくことを、授業者は願っています。

参考文献：和泉伸一(2016)『第2言語習得と母語習得から「言葉の学び」を考える』アルク
 参考資料：Japan Expo 公式サイト <http://www.japan-expo-france.jp/>

6 新学習指導要領との関連

(3) 話すこと [やり取り]

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

7 題材構想 (6時間)

- | |
|---|
| (1) 日本を感じるものとの出会い (1時間)
(2) どのようなオリジナル商品を作ろうかな？この魅力をどのように伝えようかな？ (2時間)
(3) 魅力が伝わるかな？ (1時間)
(4) オリジナル商品の魅力を伝え合おう (2時間：本時はその1) |
|---|

(1) 日本を感じるものとの出会い (1時間)

授業者は子どもたちに日本文化を感じられる写真を提示していきます。例えば、今治タオルの写真を見せます。今治タオルがどのようなものなのかを英語で説明するように子どもたちに促します。子どもたちは写真で提示された日本を感じるものについてどのようなものなのか、どのように使うのかなどの詳しい情報を英語で伝えていきます。子どもたちは次のようにペアに伝えていくでしょう。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • It's a traditional Japanese towel. • It's made in Japan! |
|---|

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • It's very soft! • 水の吸収に優れているは英語でどのように言うのか • 職人の技は英語でどのように言うのか • 今治タオルは普段使うが、改めて見ると知らないことが多いからこれ以上情報が出ない <p style="text-align: right;">など</p> |
|---|

子どもたちは英語で日本文化について伝えることに難しさを感じたり、詳しく知らない日本文化があることに気づいたりします。また、言いたいことはあるのに英語に直せないというもどかしさを感じ、どのような英語で表現できるのかを知り

たいと思うことでしょう。上記の今治タオルの例で言えば、水の吸収に優れていることや職人の技という意味が伝わる英語を知りたくなります。そこで、英語で言えなかったことを全体で共有して、どのような英語を使えばよいのかを出し合ったり、ALT にたずねたりして表現の幅を広げていきます。さまざまな写真を提示することで、日本発祥のキャラクターや、最近日本で流行している歌や漫画も日本文化であることに気がつくでしょう。

子どもたちは次のような感想をもつでしょう。

- ・ワンピースやナルトのような日本の漫画も日本文化であるとわかった
 - ・柴犬や秋田犬も日本生まれの犬だから日本文化だ
 - ・外国でランドセルはおしゃれアイテムだとは知らなかった
 - ・ペアに何とかランドセルを英語で伝えることができたが、本当にこれで伝わるだろうか
- など

(2) どのようにオリジナル商品を作ろうかな？

この魅力をどのように伝えようかな？（2時間）

第1時を終え、さまざまな日本文化を説明した子どもたちに授業者はフランスで行われた Japan Expo の様子を映像で提示します。この映像の中では、日本を感じるものがさらにアレンジされることによって、日本文化に精通しているフランス人であっても、ユニークで斬新な日本を感じるものに出会い感動する場面がたくさん見られます。映像を見た子どもたちは、日本文化を紹介するときに一方的ではないやり取りが行われていることや、日本文化に斬新なアイデアを加えて新しい日本文化を紹介していることに気がつくでしょう。Japan Expo とは、世界各国の人たちと新しい日本文化との出会いが目的であり、異言語・異文化をもつ人々にとってワクワク・ドキドキさせるようなものであることに気づくでしょう。

世界各国の人たちに新しい日本文化との出会いを楽しんでもらうため、日本文化を紹介することに興味をもち始めた子どもたちに、ユニークで自分の思いが詰まったオリジナル商品を作り英語で説明しようと提案します。さまざまなアイデアを思い浮かべながら、子どもたちは自由にオリジナル商品を考えていきます。

- ・簡単に着られる浴衣セットを用意しよう。帯を

- 花の形で結んでそこに花を生けようか
 - ・栄養は変わらないが、苦くないお茶をつくる
 - ・畳パフェをつくる。畳はチョコレートでつくる
 - ・キティちゃんの家に一泊できるよう計画する。キティちゃんの家をどのような家にしようか
 - ・抹茶が入ったチョコレートファウンテンで抹茶の味を紹介したい
- など

子どもたちはユニークな発想を生かして、日本を感じられるオリジナル商品を何にするかを決めていきます。商品を決めつつ、子どもたちはその魅力についても考えていくでしょう。魅力はもちろんですが、子どもたちは、ユニークだと考える部分を絶対に伝えたいというこだわりが出てくるかもしれません。伝えたい内容が決まってくると、絵に示したり実際に見せる物を用意したりする子どももいるでしょう。また、異言語・異文化をもつ人々にとって、自分が紹介する日本文化は初めて聞く情報かもしれないので、詳しく説明することの必要性にも気づくでしょう。伝える相手を意識した子どもたちは次のように考えるでしょう。

- ・将棋は英語に直せないから Shogi でよいが、どのようなゲームなのか説明する方がよい
- ・Shogi is a traditional Japanese game.と言われてもイメージしにくい。It's like chess.と付け加えればわかりやすい。それぞれの駒の動かし方も説明した方がよい。言葉では説明しにくいから、実際動きを見せて説明した方が理解してもらえるだろう
- ・日本を感じられるデザインと言ったら桜や城か
- ・Japanese people enjoy cherry blossoms in the spring. We can see many cherry blossoms. They are pink and they are very beautiful.
- ・This is a Japanese castle. Please look at the wall. Stone walls! Very strong! Climb? NO! NO! Very difficult.
- ・緑茶は体によく、さまざまな効果がある
- ・This is Japanese green tea. It is good for us. Good health! Feel good!
カテキンの効果についても言いたい。調べたら、老化防止、生活習慣病によい。緑茶に砂糖を入れて飲む人がいるらしいが、その必要がない甘い緑茶を開発したことを伝えたい。伝えたいことはそろったが、英語で何と言えばよいのか

など

このように子どもたちは伝えたいことはたくさんあるにもかかわらず、伝えられないことに苦しさを覚えることもあるでしょう。例えば、老化防止という言い回しについてですが、Green tea can keep (make) you young (beautiful)など言い換えをします。子どもたちはKeep youngやNo oldなど知っている単語を使って表現するでしょう。子どもたちのこのような工夫を授業者は称賛していきます。本題材では伝え合う楽しさを子どもたちに味わってほしいため、知っている単語を組み合わせたり伝え方を工夫したりしてあきらめずに伝えることを大切にしたいと考えます。

(3) 魅力が伝わるかな？ (1時間)

前時まで子どもたちはオリジナル商品をどのように紹介しようか考えました。オリジナル商品のよさを伝えるためにはどのような英語がよいのか試したい子どももいるでしょう。また、オリジナル商品のよさが伝わるのか、不安に感じている子どももいるかもしれません。そのような子どもたちは誰かに聞いてほしいと思うでしょう。そこで授業者はペアと自分が考えたアイデアを伝え合うことを提案します。ペアでの伝え合いに挑戦した子どもたちは、互いの紹介の中で伝わった内容と伝わらなかった内容がどの部分なのかに気づきます。このやり取りを行うことによって、伝えられなかったところを言い換えたりさらに具体的にしたりして自分でつくった英語に自信をもつことができるでしょう。

A: This is a Japanese cup.
B: Wow!
A: You can enjoy hot drinks with it.
B: That's nice.
A: Please use this cup with sushi.
B: Ok! Sounds fun!
:

上記の場面では、紹介する人Aの湯飲みについての英語が伝わったことにより、Aは自信をもち、さらに他の人にも伝えたくなるでしょう。

A: This is a Japanese cup. We say "yunomi".
B: Yunomi? Okay.
A: You can wash the cup. Be careful. It is easily broken.

B: Easy? Broken?

A:伝わっていない

上記の場合、紹介する人Aは自身の英語を改善する必要があることに気がつきます。通じていないことに気づいたときに、よりよい英語表現があるはずだとペアと相談しながら改善を始めます。その際、既習の表現を駆使して何とか伝えようとする姿が見られるでしょう。それならわかりやすいという反応をもらうことで、子どもたちは伝わったという実感をもつでしょう。また、伝えたいけど伝えられない表現に出会ったときに、子どもたちはペアでのやり取りをふり返り、次のように考えるでしょう。

・他に言い方が見つからないから、ジェスチャーと音を使って伝えよう。湯飲みを床に落とすジェスチャーを示しながらガシャーンと言えば、湯飲みは落としやすいし壊れやすいことも言えるだろう。その後、英語で Oh, no! Good-bye cup! Please don't do this. と付け加えれば「壊れやすいから気をつけて」と伝わるだろう

など

上記のように子どもたちは、どのような英語にしたら伝わるのか考えていくでしょう。子どもたちはペアを変えて何度かやり取りを行うことで、より伝わる英語表現を探していくでしょう。

また、ここでは聞き手が重要な役割を担っています。聞き手の反応がない限り、話し手の内容が伝わっているか伝わっていないかの判断ができません。聞き手が感想を言ったり質問をしたりする姿を授業者は価値づけていきます。

(4) オリジナル商品の魅力を伝えよう！

(2時間：本時はその1)

前時のやり取りで自信をもった子どもたちはオリジナル商品の魅力を英語で堂々と伝えていくことでしょう。

A: Hello! How are you?
B: Hi! I'm good, and you?
A: I'm okay. Look! This is my product! This is a Japanese cup.
B: Wow! It's beautiful!
A: Hmm, beau? Excuse me?
B: Beautiful!
A: Oh! Beautiful! Thank you. You can enjoy hot

drinks.

B: That's nice.

A: Do you eat sushi?

B: Yes, I do.

A: Me, too. What sushi do you like?

B: I like tuna. How about you?

A: I like tuna, too. Yeah! High five! Sushi and a Japanese cup, best match! Enjoy sushi and a Japanese cup!

B: Wow! Cool!

A: But be careful! (落とすふりをして) ガシャーン! Good-bye cup! Please don't do this!

B: I see. I like your cup.

A: Thank you.

B: I'll take it.

A: Excuse me? Take?

B: Yes! I'll buy it.

A: Buy? Okay! Thank you. I'm happy! This is for you.

B: Thank you!

上記のように、子どもたちはあきらめずに自分の言いたいことを伝えたり、わからないことは聞き返したりすることでやり取りを続けていきます。また、伝えた内容に相手が理解を示していない様子に気づくと、言い換えたりもう一度詳しく説明したりするなど臨機応変に対応していきます。このようなやり取りを通して、伝える相手を意識することの大切さを実感していくでしょう。また、やり取りの中で、伝え合うことやわかり合うことに夢中になっていたり、予想外の反応や質問に対応しようとしたりするときこそ、互いの視線は相手に向き、言葉やジェスチャーを使って必死にやり取りを続けようとしします。そのようなときに、頼りになるのは原稿ではなく、今までに自分が出会ってきた英語と伝えたいという熱い思いです。なかなかうまく伝えられないことに“スリル”感をもちながらも、伝わったときの達成感は感動にもつながることでしょう。

本題材を通して子どもたちは以下のような感想をもつことでしょう。

- ・オリジナル商品のよさが伝わった。楽しかった
- ・日本文化を伝えることは難しかった。日本について多くのことを知らないといけない
- ・日本文化のよさをわかってもらえた。これからも多くの人に紹介したい
- ・友だちの意見を聞いて英語でどう言えばよいの

かを知ることができた

- ・前のやり取りでは伝わらなかったけれど、友だちに聞いたりやり取りを続けていったりするうちに伝えることができるようになった
- ・自分のアイデアも入れつつ使う人のことを考えてオリジナル商品をつくった。商品の説明をしたら“I like it.”と返してくれた。説明が伝わったことだけではなく自分のアイデアを気に入ってくれたこともうれしい。気に入ったものに出会ったら今度は自分が“I like it.”と自分の思いを伝えたい
- ・伝わらないところがあったけれど、言い換えたりジェスチャーを入れたりしたら何とか伝えることができた。理解しようとしてくれた聞き手の優しさがうれしかった。これからも相手に伝わるように工夫をしていきたい。今度、自分が聞き手になるときは相手の言っていることに感想を言ったり質問をしたりして会話を楽しみたい
- ・仲間が自分のために理解できるようによく使う単語で言い直してくれたり、ジェスチャーを使ったりしてくれた。自分を大切にしてくれているようでうれしかった
- ・聞いている人にとって初めてのものをわかりやすく説明するのは難しいが、理解してもらうことができた。伝わってうれしかった。これからも自分が話をするときは、相手が理解するために自分がどのようにすべきかを気にかけていきたい。自分が話をする内容について相手は初めて聞くことかどうか、興味のある分野かどうか、自分がどのような言葉を選べば伝わりやすいのかなど、聞き手に配慮しながら話をするようにしたい

など

本題材でのやり取りを通して、子どもたちはオリジナル商品のよさが伝わったことや、予想外の質問があってもやり取りを続けることができたことに達成感や充実感をもつことでしょう。やり取りすることの楽しさを味わった子どもたちが、さらに世界の人々とのコミュニケーションを積極的に楽しんでいこうとする前向きな姿になることを願います。